



拾野集

冬

特別
イ 4
3163
31(6)



立冬

初冬

初冬惜秋

初冬天

初冬風

初冬雲

初冬時雨

初冬雪

初冬霜

初冬野

森林初冬

山中初冬

海邊初冬

名所初冬

山家初冬

山居冬至

荒庭冬至來

閑居冬至來

初冬傷老

初冬夕

時雨

初時雨

驚時雨

聞時雨

獨聞時雨

時雨告冬

曉時雨

朝時雨

夕時雨

夜時雨

夜聞時雨

終夜聞時雨

寢覺聞時雨

時雨驚夢

閑夜時雨

月前時雨

時雨易晴

時雨易過

時雨過

時雨晴

時雨晴陰

風前時雨

時雨交風

時雨頻

時雨遠近

東西時雨

時雨所々

山中時雨

山中時雨

遠山時雨

深山時雨

時雨迴山

時雨染山

峯時雨

岡時雨

山路時雨	野時雨	原時雨	野徑時雨	時雨染野
名所時雨	海邊時雨	浦時雨	海路時雨	磯時雨
磯屋時雨	河邊時雨	滝邊時雨	樹陰時雨	松風似時雨
檜原時雨	森時雨	山家時雨	里時雨	閑居時雨
庵時雨	屋上時雨	時雨混落葉	行路時雨	旅中時雨
旅宿時雨	旅泊時雨	時雨似淚	淚為時雨	時雨沾袖
寄時雨述懷	紅葉	山皆紅葉	殘紅葉	紅葉殘梢
時雨染紅葉	時雨添紅葉	紅葉厭風	夜思紅葉	紅葉欲散
紅葉散	紅葉不殘	紅葉落衣	紅葉滿庭	紅葉浮水
落葉	落葉有聲	聞落葉	夜聞落葉	夜々聞落葉
曉聞落葉	翫落葉	落葉殘秋	落葉晚	落葉頻

落葉不休	落葉不駐	葉落不殘	落葉不待風	落葉更厭風
風拂落葉	落葉風	風前落葉	落葉隨風	落葉如雨
雨中落葉	落葉交雨	雨後落葉	朝落葉	夕落葉
夜落葉	落葉驚夢	月前落葉	月照落葉	山中落葉
峯落葉	名所落葉	橋上落葉	落葉埋橋	葉落水紅
水路落葉	河落葉	水上落葉	落葉遮流	落葉掩水
落葉埋水	落葉藏水	落葉浮水	落葉浮浪	谷落葉
瀧落葉	落葉染瀧	湖上落葉	海上落葉	浦落葉
旅宿落葉	旅行落葉	關路落葉	山路落葉	行路落葉
落葉埋路	故鄉落葉	古砌落葉	山家落葉	荒屋落葉
閑居落葉	屋上落葉	窓上落葉	禁庭落葉	庭上落葉

月先映水	谷水	池水作鏡	井水	懸槿水	葦間水
冰滿	厚冰	江冰	古渡寒水	湖邊水	浦水
寄霜述懷	冰	溪邊水	汀水	山家水	冰閉山水
樹上霜	葉上霜	冰停水聲	冰駐舟	網代邊水	名所水
野外霜	草霜	袖冰	寒草 <small>冬草同</small>	寒草踈	海邊寒草
殘菊	惜殘菊	水邊寒草	野寒草	田邊冬草	月照寒草
朝霜	夕霜	寒芦	江上寒芦	浮寒芦	寒松
社邊落葉	寄神祇落葉	山寒松	寒松風	寒樹嵐	枯野
翫殘菊	庭上殘菊	冬月 <small>寒月同</small>	冬月牙	霜曉月	每夜月牙
殘菊映水	籬殘菊	冬明月	老見寒月	雲間冬月	雨後冬月
殘菊苗人	霜	葉落月明	月出寒月	冬山月	森冬月
橋上霜	行路霜				冬關月
岡草霜	篠霜				
霜埋落葉	霜滿庭				
冰知冬	冰初結				
朝冰	夜冰				
谷水如鏡	河上水				
露結為霜	深夜霜				
山路霜	山路霜				
竹霜	竹霜				
旅宿霜	旅宿霜				
薄冰	薄冰				
冰逐夜結	冰逐夜結				
淹水	淹水				

池水	池水作鏡	井水	懸槿水	葦間水
水路水	江冰	古渡寒水	湖邊水	浦水
崎水	溪邊水	汀水	山家水	冰閉山水
冰停水聲	寒水閉萍	冰駐舟	網代邊水	名所水
袖冰	寄冰述懷	寒草 <small>冬草同</small>	寒草踈	海邊寒草
水邊寒草	河邊寒草	野寒草	田邊冬草	月照寒草
寒芦	江上寒芦	浮寒芦	寒芦隔水	寒松
山寒松	寒松風	寒樹嵐	寒樹風	枯野
冬月 <small>寒月同</small>	冬月牙	霜曉月	每夜月牙	霜夜月
冬明月	老見寒月	雲間冬月	雨後冬月	風前寒月
葉落月明	月出寒月	冬山月	森冬月	冬關月

水邊寒月	河冬月	渡寒月	浦冬月	湖冬月
池上寒月	社頭寒月	名所冬月	田家冬月	月照旅宿
庭上寒月	冬殘月	養後寒月	冬有待人	霰
霰如玉	曉霰	夕霰	夜霰	深夜霰
山霰	深山霰	野霰	柏霰	柴霰
霰交落葉	行路霰	海邊霰	山家霰	閑居霰
閑居閑霰	屋上霰	庭霰	千鳥	月有千鳥
殘月閑千鳥	風前千鳥	曉千鳥	曙千鳥	朝千鳥
每朝閑千鳥	夕千鳥	夜千鳥	寒夜千鳥	深夜千鳥
終夜吟千鳥	千鳥驚眠	寢覺閑千鳥	月前千鳥	風前千鳥
閑千鳥	遠千鳥	近千鳥	名所千鳥	湖上千鳥

海邊千鳥	溪千鳥	浦千鳥	浦傳千鳥	溪千鳥
磯千鳥	崎千鳥	島千鳥	深千鳥	湍千鳥
葦間千鳥	千鳥驚波	千鳥驚松	海路千鳥	船中閑千鳥
旅泊千鳥	旅宿千鳥	閑路千鳥	行路千鳥	千鳥有跡
千鳥留跡	寄千鳥貌	水鳥	夜水鳥	寒夜水鳥
深夜水鳥	月前水鳥	寢覺閑水鳥	夜思水鳥	朝水鳥
夕水鳥	水鳥帶霜	水鳥拂霜	冰閉水鳥	水鳥近剗
水鳥夢	池水鳥	葦間水鳥	水鳥遊藻	遠邊水鳥
谷水鳥	江水鳥	海水鳥	島水鳥	鳴
鴨	鴛鴦	寄水鳥述懷	水鳥有跡	網代
夜網代	月照網代	紅葉苗網代	名所網代	網代興

野亭雪	名山雪	岡雪	山雪	積雪	月照山雪	夕雪	行路初雪	葉上初雪	寄綢代述懷
私雪	山深雪	峯雪	山中雪	雪似白雲	月夜雪	夜雪	淺雪	山初雪	糝
山路雪	野雪	麓雪	深山雪	雪似花	風前雪	夜思山雪	曉望山雪	山居初雪	雪
山路雪深	原上雪	雪滿高根	遠山雪	雪先春花	閑雪折	雪似月	曙雪	峯初雪	初雪
雪埋山路	野徑雪	雪滿羣山	嶽雪	雪如梅花	雪深	月照雪	朝雪	松上初雪	朝初雪

橋上雪	海邊雪	名所雪	山居雪	閑居雪	庭雪似月	故鄉雪深	山樹雪深	雪埋落葉
雪埋古橋	浦雪	伏見里雪	山家雪	庵雪	洛陽雪	社頭雪	嶺樹雪深	松上雪
水邊雪	溪雪	里雪	山家雪深	雪埋屋	禁中雪	社邊雪	雪埋樹	雪埋古松
冰上雪	渚雪	山里雪	山家雪朝	庭雪	古宮雪	雪中古寺	樹頭雪	松雪深
池邊雪	湖邊雪	山里深雪	山家拂雪	庭雪厭跡	故鄉雪	森雪	雪混落葉	雪埋松樹
行路深雪	行路雪	行路雪	行路雪	行路雪	行路雪	行路雪	行路雪	行路雪

雪埋庭松	翫松上雪	雪作松樹花	雪落於長松	秋雪
雪埋竹	竹雪	雪落衣	插頭帶雪	雪中興
望山雪	雪中眺望	雪中遠望	雪朝眺望	雪中遠情
雪中密人	雪中待友	雪中無來客	雪中訪人	雪中尋人
雪中客來	友待雪	老人憐雪	寄雪傷老	雪中幽思
寄雪延思	雪朝嘆老	寄雪述懷	雪中述懷	寄雪祝
寄雪神祇	雪知豐年	歲暮雪	野行幸	鷹狩
朝鷹狩	夕鷹狩	晚頭鷹狩	鷹狩日暮	日二鷹狩
雪中鷹狩	狩場霰	野鷹狩	澤鷹狩	炭竈
朝炭竈	炭竈烟	炭竈雲	雪中炭竈	深山炭竈
里炭竈	谷炭竈	埋火 <small>炉火同</small>	寒夜炉火	閑夜埋火

埋火似春	豐明節會	辰日節會	五節舞姬	加茂臨時祭
臨時祭還立	神樂 <small>カミヤ</small>	雪中神樂	禁中神樂	夜神樂
月前神樂	里神樂	佛名	雪中佛名	佛名到曉
佛名朝	早梅 <small>冬梅同</small>	雪中梅花	雪中早梅	早梅交雪
梅花先春	梅開待春	梅告春近	歲欲暮	歲暮
惜歲暮	年年惜歲暮	傷歲暮	驚歲暮	慕歲暮
悔歲暮	送年	歲暮忙 <small>シ</small>	急歲暮	雪中歲暮
雪與歲深	雪中送年	歲暮月	歲暮梅	歲暮松
河歲暮	歲暮筏	海邊歲暮	雪のこゝろ	歲暮急於水
歲暮早於水	歲暮如流	寄物歲暮	寄波	寄木

寄夢
寄玉
寄鳥
寄駒
閑中歲暮

冬、野	冬、夜難曙	冬、曙	冬、風	冬、星	雪中除夜	除夜	閑居待春	旅中歲暮	歲暮言志	老後歲暮
冬、野也々	冬、寢覺	冬、朝	冬、嵐	冬、日	禁中除夜	惜除夜	老後待春	旅宿歲暮	歲暮思昔	老人惜年
冬、關	冬、地儀	冬、夕	冬、朝嵐	冬、雲	野外除夜	驚除夜	植梅待春	歲暮祝	歲暮懷舊	老傷歲暮
冬、川	冬、山	冬、夜	冬、烟	冬、雨	魂祭	傷除夜	除夜待春	待春	歲暮待人	老人憐歲暮
川冬	冬、深山	冬、夜長	冬、曉	冬、露	冬、天	除夜傷老	春卜隣	依花待春	歲暮惜別	歲暮述懷

冬、鐘	水鄉冬望	冬、旅行	冬、蟲	冬、獸	冬、木	冬、庭	山家冬	冬、社頭	冬、漁火	冬、浮草
冬、遠情	冬、遠	冬、旅	冬、人車	冬、鳥	冬、埋木	冬、籠	山家冬烟	冬、所冬	水路冬	冬、瀧
冬、幽思	冬、香	冬、別	寒、閨獨卧	冬、鴈	冬、花	冬、衾	冬、山居	冬、田	冬、舩	冬、谷
冬、述懷	冬、色	冬、餞別	冬、夜夢	冬、鶴	冬、蔭	冬、衣	冬、閑居	冬、山田	水鄉冬	冬、海邊
冬、懷舊	冬、聲	冬、眺望	寒、夜旅宿	霜、夜鶴	冬、行	冬、植物	冬、床	冬、田家	故鄉冬	冬、浦朝

初冬形 冬之初秋の家の神の家を説くは冬も冬も心傷集
 初冬干 冬之の草葉をいふ冬も心傷集をいふ冬も心傷集
 初冬代 大向の森の冬も心傷集をいふ冬も心傷集
 山中初冬月 山中の風小の葉をいふ冬も心傷集
 海邊初冬月 海邊の初冬をいふ冬も心傷集
 名所初冬形 名所の初冬をいふ冬も心傷集
 小倉山初冬代 小倉山の初冬をいふ冬も心傷集
 山家初冬干 山家の初冬をいふ冬も心傷集
 山ノ冬代 山ノ冬をいふ冬も心傷集
 全 冬も心傷集をいふ冬も心傷集
 同 冬も心傷集をいふ冬も心傷集
 荒屋冬形 荒屋の冬をいふ冬も心傷集
 一ノ五冬形 一ノ五の冬をいふ冬も心傷集
 初冬形 初冬の冬をいふ冬も心傷集
 初冬月 初冬の冬をいふ冬も心傷集
 初冬月 初冬の冬をいふ冬も心傷集

時雨

初時雨形 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨干 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨代 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨月 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨形 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨月 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨代 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨干 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨月 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨形 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨月 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨代 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨干 初時雨の冬をいふ冬も心傷集
 初時雨月 初時雨の冬をいふ冬も心傷集

曉時雨

千 糖の後の夜を小舟をうらむ時雨小舟を在る在るの月 太田五

朝時雨

初 朝ついでに恨一人のれ星をうらむと志すも浅き出雲 中信

夕時雨

月 夕たしの夜を舟をくちねはる舟のしんくく村を 厚多羽沈

夜時雨

物 舟はまのりぬ木葉小袖をきて可あふぬ夜曉の夜 西園寺八景

夜時雨

全 夕雨日入のしんくくさのり遠小舟を初をねる舟 魚貝

独夜聞時雨

千 山端小舟のないうらむづれ藤の里の志づれてぞり 以上

夜時雨

代 初 初見して遠きうらむの比れ木葉小舟を舟の可あふ 馬内侍

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 小太夫

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 色房

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 孫伴

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 讀人不知

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 原宗

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 宇信

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 宇信

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 宇信

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 宇信

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 宇信

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 宇信

夜時雨

初 初見する舟小舟を舟を舟と志すも舟の舟の舟 宇信

時雨 嵐野
名所 雨

海辺 雨

磯屋 雨

磯屋 雨

磯屋 雨

磯屋 雨

磯屋 雨

磯屋 雨

磯屋 雨

松風 雨

代 長衣ハ夕風多ク一藤原也志ぐり世ハ小若ハくし 雨意△

代 神月マシム一海ハ雨ぬ小石流ク世ハ来ハ 嘉之△

代 名所キクハ青ガシノ山カド志ぐり比ハ其替リ守リ 志重△

代 雨ハぬ世思本繁ハ守リ守リ守リ守リ守リ守リ 知家△

代 社ハ七小島ハ其ノ事ハ小松風ハ雨ハ雨ハ雨ハ 歌廣△

代 志重ハ志重ハ津ノ浦ハ神皇ノ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 後直△

代 松風ノ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ 七方△

代 志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ 志重△

代 志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ 志重△

代 志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ 志重△

代 志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ 志重△

代 志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ 志重△

代 志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ志重ハ 志重△

松原 雨
本東 雨
山家 雨

代 風流ハじがらの雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 九条△

代 雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 後直△

代 雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 志重△

代 雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 志重△

代 雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 志重△

代 雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 志重△

代 雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 志重△

代 雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 志重△

代 雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ 志重△

り後時雨
転り時雨

旅者時雨

旅者時雨
時雨似浪
浪為河雨
河多雨袖

代 河多雨と云ふの本葉は後時雨と云ふに似たりと云ふは
月 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
全 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
いさく雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
千 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
草 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
形 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
月 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
形 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
初 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
代 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
形 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
代 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ

寄時雨述懐

紅葉

山皆紅葉
新紅葉

紅葉新梢
時雨似浪
河多雨袖

形 世中小粒と云ふは河多雨と云ふの月の時雨と云ふに
助 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
全 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
形 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
代 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
形 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
代 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
形 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
代 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
形 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ
代 雨くはよ本葉より其の神是月時雨不神は雨と云ふ

紅葉歌

代 神世月河多ふあふるもぢぢりうらぶあき風のみまぢく 大伴也生

夜田紅葉

代 しののゝ紅葉をよのまに子鏡山麓の村風抄志はるは 惠基文

紅葉歌

代 弟く錦秋の歌を更田山麓の村風抄志はるは 志内

紅葉歌

代 神世月河多ふあふるもぢぢりうらぶあき風のみまぢく 家持

紅葉歌

代 吹風小夏を小ぢりうらぶあき風のみまぢく 家持

紅葉歌

代 色く小ぢりうらぶあき風のみまぢく 家持

紅葉歌

代 秋一色秋の歌を更田山麓の村風抄志はるは 家持

紅葉歌

代 弟く錦秋の歌を更田山麓の村風抄志はるは 家持

紅葉歌

代 吹風小夏を小ぢりうらぶあき風のみまぢく 家持

紅葉歌

代 色く小ぢりうらぶあき風のみまぢく 家持

紅葉歌

代 秋一色秋の歌を更田山麓の村風抄志はるは 家持

落葉

代 大井の紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

師賢

後 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

上美人

形 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

秀能

代 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

和名

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

下野

全 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

後

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

隆頼

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

管

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

中

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

能因

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

式子内整

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

伊勢

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

管

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

管

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

管

同 しののゝの紅葉くぬきさう 嵐のふれもぢぢり

管

上落葉秋

後拾 落葉の紅葉はこれが大井河を流り秋とす

上任

落葉不眠

代 凡の暮小秋のわらわらと秋の秋の紅葉枯れ

相模

落葉不眠

同 赤い秋の秋の紅葉枯れ

宿岐

落葉不眠

神月月志とていふはまき木葉の紅葉也

ら奇

落葉不眠

後 赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

之知徳人

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

大西

落葉不眠

大井河流て流る紅葉はこれ大井河の紅葉也

芭因

落葉不眠

代 凡の暮小秋のわらわらと秋の秋の紅葉枯れ

寛文

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

箱内侍

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

後拾

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

花山沈八

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

昭季

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

信豊

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

上後作夫

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

本深

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

長補

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

八代二羽聖

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

集記

落葉不眠

赤い月志とていふはまき木葉の紅葉也

後人

落葉交雨

夕落葉

朝落葉

夜落葉

有雪落葉

山中落葉

山峯落葉

名所落葉

橋上落葉

落葉埋橋

落葉水鏡

後 神月時節と見小鉢をよの森け木葉はちり小鉢物化

時節と見く積せと人い紅葉は折入種と也見森

千 木の葉のよとこしり内面小い後と見ぬ物と有る

新 風の音小内面吹つて紅葉小ゆる積とど見家

月 名所より河面の見の晴物とどまづ落葉は木葉の音り

代 一村の音多い道ぬ枝の也小折と落葉の音り

月 夕の音小又抽いと本葉あはれま小い如湯あす

秋 枝の板戸との音小埋れて木の葉と音り物と音り

新 入白ととみちの山の指葉も音り木葉の音り

月 月小い秋の名所の夕音小本葉は折入山虎の音

後 本葉あはれつくと夕音に河面と音り秋と時節をぬ

後 一の散葉の音小あはれて河とみちの音り

金 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

後 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

月 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

代 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

月 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

後 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

代 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

月 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

金 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

代 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

月 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

後 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

代 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

月 名所と見の音と音り木葉の音り河とみちの音り

水辺落葉

河落葉

水と落葉

落葉遮流

落葉掩水

落葉埋水

代 水と小紅葉をり一初瀬川流の江東海へてり 葉見

金 大井河紅葉とふる代土ハ掉小流と無てこれれ 致親

代 多瀬舟棹とていふ代元久敷と紅葉被横大為河 重資

古 試川小川とていふ流る栗山の多分の水とて増るり 讀人等

代 大為川水れ流く代と力とて紅葉の長い面とこれだ 空頼

金 水と小時なるるり一河のせの紅葉の長くは 土間

代 柞葉とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 伊家

終 流くる紅葉の長くはこれれは流す代とていふ代とていふ代 土間

代 名多川流る世の流る代とていふ代とていふ代 重資

後 流る代とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 後系極

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 空頼

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 伊家

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 重資

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 空頼

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 伊家

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 重資

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 空頼

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 伊家

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

冬ノ十

落葉藏水

落葉浮水

落葉浮浪

落葉浮水

落葉浮水

落葉浮水

落葉染滝

湖上落葉

海上落葉

浦落葉

流落葉

金 大井河を流るる葉をりせは紅葉とていふ代とていふ代 重資

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 空頼

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 伊家

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 重資

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 空頼

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 伊家

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 重資

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 空頼

代 水と小川とていふ代とていふ代とていふ代とていふ代 土間

旅り落葉 代
關詒落葉 十
わ〜と何と別れ不落る本葉の紅葉の海女分り 嘉之
重なるの皆如小葉〜々〜のふ〜の川の裏 秋宗
初小〜も〜青葉〜と〜〜と〜紅葉〜く〜の 類凶

山詒落葉 金
本葉ちる也田のふ〜〜〜〜のふ〜〜 重
之〜の紅葉〜〜〜人の紅葉不葉不葉〜 類凶

落葉埋臨 代
左に落葉 十
是ぢぢの葉〜〜のり〜〜〜不〜〜の詒〜 葉之
左にの葉〜本葉不葉〜〜〜〜〜〜〜 廣言

古柳落葉 有
之少〜心〜わ〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
若れ〜小本葉交換〜の面〜首の〜人〜詒〜 葉之

山小落葉 代
本枯小〜の〜〜〜〜〜〜〜〜〜 西り
若小枯〜の〜〜〜〜〜〜〜〜〜 燈信

不長落葉 十
ま〜〜〜の枝〜小〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
葉是〜後〜風〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

屋上落葉 全
ま〜〜〜の枝〜小〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
葉是〜後〜風〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

窓落葉 代
之〜〜〜本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 小宰相
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

庭上落葉 形
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

落葉藏庭 月
是ぢぢの葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

閑庭落葉 十
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

松有落葉 十
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

落葉如錦 十
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

見落葉者興 初
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之
若れ〜小本葉〜〜〜〜〜〜〜〜〜 葉之

山崎霜

野介霜

草霜

草霜

竹霜

樹上霜

葉上霜

霜埋落葉

霜埋落葉

霜埋落葉

霜埋落葉

霜埋落葉

水

代 足柄山崎の月小峰越てゆれ袖小糸と結れる

菊茂

代 世にえんば花下とえぬ村為枯葉が束小糸と並ぶ

法性寺道

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

也快

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

主良

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

之家

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

西園寺八郎

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

経正

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

経正

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

家隆

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

家隆

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

志貴皇子

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

能宣

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

能宣

代 草上霜小糸とくちかへてなすこもり也朝庭霜小糸並ぶ

祝宗

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

氷知を

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

代 氷知を... 氷知を... 氷知を...

仲純

若水如鏡
河上水

滝水

池水

池水作鏡

井水

無極水

葦間水
水路水

小侍位
内大臣
崇徳院
板政
直學
友房
伊實
生後
清人
兼家
輔仁親王
能子内親王
頼朝
隆興

に水

古渡水

湖邊水

浦水

奇水

湊水

汀水

山家水

水間山

水傳

水子内親王
覺性法親王
龜山
長方
龍昭
土山内
隆信
左将
備前

寒氷閑草^代 あり水の冬はくまの浮草はあつと種が知らず 和の如く部

氷駐舟^金 はるのど流をやむ冬舟身結ぶ水の心をぬきとて 三七

網代邊氷^代 網代をよむをよむ 後鳥羽田三川もあはるしとは 為家

名所丸^後 あきそかたはらの川もあはるしとは 氷はくまのわで 夫木

袖氷^後 心ひつと種をく小ゆる冬はあ 神は氷のぬすむる多 讀人不知

寄氷述懐^後 あはれと小ゆるし 柳は冬は氷の氷に袖の袖をぬすむる 同

寒草^{冬草} 世中小さき ぎ柳の柳は冬は氷の氷に袖の袖をぬすむる 全

雪草^{冬草} 世中小さき ぎ柳の柳は冬は氷の氷に袖の袖をぬすむる 全

海辺雪草^金 世中小さき ぎ柳の柳は冬は氷の氷に袖の袖をぬすむる 全

水邊雪草^金 世中小さき ぎ柳の柳は冬は氷の氷に袖の袖をぬすむる 全

川邊雪草^金 世中小さき ぎ柳の柳は冬は氷の氷に袖の袖をぬすむる 全

野寒草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

田邊冬草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

月邊冬草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

寒草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

以上寒草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

雪草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

海邊雪草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

水邊雪草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

川邊雪草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

野寒草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

田邊冬草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

月邊冬草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

寒草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

以上寒草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

雪草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

海邊雪草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

水邊雪草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

川邊雪草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

野寒草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

田邊冬草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

月邊冬草^秋 野寒のこまはくく 九はあき草の 沙草は 長方

寒樹嵐
雪樹風
枯野

冬月

寒月同格

冬月
霜曉月

物 冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

冬月 寒月同格 大武三位

毎夜月

霜花月

冬月

老見寒月

雪有冬月

雨後冬月

風前冬月

葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

物 毎夜月 霜花月 冬月 老見寒月 雪有冬月 雨後冬月 風前冬月 葉落月明

月出寒山

冬山月

木江冬月

冬冥月

水田冬月

何冬月

渡寒月

浦冬月

湖冬月

新 小倉山林此里小木聚れは楢小なる月影を照らす

吹折る山霞降移るる月影を照らす月影を照らす

物 河をわたり雪降移るる月影を照らす月影を照らす

千 木林の雪吹折るる月影を照らす月影を照らす

秋 秋は寒く折るる月影を照らす月影を照らす

物 冬林の森は折るる月影を照らす月影を照らす

千 次は折るる月影を照らす月影を照らす

全 月影を照らす月影を照らす月影を照らす

代 冬林の森は折るる月影を照らす月影を照らす

果 果は折るる月影を照らす月影を照らす

新 月影を照らす月影を照らす月影を照らす

丹後

雅光

少

少

少

少

少

少

少

少

少

少

少

少

池上寒月

社院寒月

名所寒月

田家寒月

月出寒山

冬山月

冬山月

冬山月

冬山月

冬山月

冬山月

冬山月

冬山月

冬山月

後 冬山月影を照らす月影を照らす

物 冬山月影を照らす月影を照らす

代 冬山月影を照らす月影を照らす

名 冬山月影を照らす月影を照らす

田 冬山月影を照らす月影を照らす

月 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

冬 冬山月影を照らす月影を照らす

霞如雪
兜霞
夕霞
夜霞
你花霞
山霞
深山霞
野霞
柏霞
木霞
霞更落来

上 霞より雪といへば拾ひ並てのれどくねふをねば 家持
物 さかる夜はうつろや霞れ見くくごころの山はのちの 来愛
全 夕付日影は小舟を来れと小霞吹すく山嵐のせど 亦隆
千 山ありとこれ枝の板屋の穂ひ小舟くそくと教導之 良經
代 舟れと小舟もや霞の暮せしとては霞風光る枕よ 長与
“ 毛つたる雪立ちさぐく山風小舟冷くくる霞ふさ 重村
形 さう浪や志がけ山風湧しひのちの小霞ふさ 法性寺
金 け 雪の志く小舟もやと霞とゆふ山小霞霞や 色房
形 物たる文野のころ小舟霞わさる浦づよる 崇徳院
代 色流く山小舟吹さくまの横に小霞うつるより 家隆
月 けさうて河舟とをなほさきて霞小舟の松本丸舞 七雲心院
全 敷つる雪どくごよまど物する更此のころ橋はたがひ 後久春を
“ 冬をさるお舟中ふ秋これ橋の松葉小霞霞より 乃理
“ いてり二村のころれより作更この敷ちるより 為立

り霞
山家霞
木霞
屋上霞
庭霞
千鳥
月首千鳥

代 命としてふれいそくは是小光せりるの霞をなら 杉輔
浦人もを霞さうー霞うらうーまう霞は沖津波風 為氏
全 らん増る霞葉小舟いどわうて何と霞れお公霞(楠仁親王
後 松 入人もや霞ふまの教君の障敷之暮せしり 後紹
初 古にこれ霞れ白粒もさえして相の落葉小霞障 家隆
後 松 板れ板をささくく小舟る園れとよ暮す斗霞うつる 只
初 園のこ小舟を松霞霞ひ外面する紫霞松小霞障 経因
初 古をささくく霞れて霞るはあのかく霞るに松枝の 庭 大輔
千 霞小舟もや霞るん月影は霞る川原よ子名鳴り 右大西
代 妹がりとさかの川辺をさゆくばさうと交わると名鳴り 長久小
代 “ 五さかちく長舟は棹やとゆふん月れお汐小千鳥うらや 仁親王
“ 靴波る浦風をさ霞るをばあつと霞小舟名鳴り 勝命
月 月きと霞のころは霞るあつと霞小舟名鳴り 後恵
代 樹は霞る浦をさ霞るをばあつと霞小舟名鳴り 土御門内

代 高砂此方の月夜文物らむ川音とて千鳥鳴り 建保造業

千 月夜の愛を明の夜小鳴り鳴りて月夜を思ふ 後成

風あ千鳥 代 ちりて夜をそとて千鳥鳴りて月夜を思ふ 為家

曉千鳥 後 曉れ社是の千鳥鳴りて月夜を思ふ 能宣

代 在りて月夜の思ひを思ふ鳴りて月夜を思ふ 忠成

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後直

曙千鳥 後 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 中一歌李

相千鳥 初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 相持

毎朝千鳥 後 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 不後後人

夕千鳥 初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 因松

夜千鳥 代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 能因

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 季純

白浪小羽あつりて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 多之

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 信實

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 了献

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 赤人

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 野賢

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 経家

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 小辨

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 吉和之

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 鍾志志下

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

代 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

初 月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ鳴りて月夜を思ふ 後鳥羽院

近千鳥

名所千鳥

湖上千鳥

海上千鳥

磯上千鳥

浦上千鳥

代 打波之大河の川の瀬川産み及ぬき小千鳥鳴之

有 秘定之糸浪の枕小鳴千鳥の音小長袖ゆき

全 村千鳥立なる音をいづれば満る波の程とて

男 さか川小鳴千鳥の音河へ川系川産むびり川産る

後 夕さんばさかの河系川産小友まどりせる千鳥鳴也

代 常りぬれぬあきの川辺小鳴千鳥音を友成り身成る

物 小夜中しとて文ねし人吉地河せのりな小千鳥鳴

代 是に代て夕浪千鳥の音鳴ばれ志ぬ小音おとほゆ

千 凡そとて秋に文ゆいづれば秋にけし小千鳥鳴之

代 秋舟とて沖小舟とてくばる磯の海にまよ崎小千鳥鳴

千 名頼松の頼波の音の不成しとて磯小千鳥鳴る也

代 凡そかゝるを磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

千 色をこゝろとて文ねし志まどりをた磯小千鳥鳴之

代 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

千 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

代 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

千 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

代 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

千 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

代 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

千 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

代 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

千 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

代 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

千 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

代 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

千 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

代 磯の音とて磯の磯の音とて磯小千鳥鳴る也

仁利寺法親王

千鳥驚船

代 在昨月月の出湖の邊舟今より千鳥驚くあり

越前

海路千鳥

月を小わしけしと漕かば千鳥一づ鳴のぬびを

色存

船中千鳥

船中千鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

祐成

旅白千鳥

旅白千鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

歌昭

旅者千鳥

旅者千鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

重昌

關路千鳥

關路千鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

重村

り路千鳥

り路千鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

母之

千鳥有跡

千鳥有跡をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

千鳥有跡

千鳥有跡をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

下回

千鳥有跡

千鳥有跡をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

千鳥有跡

千鳥有跡をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

水鳥

水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

寒夜水鳥

寒夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

月前水鳥

月前水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

夜水鳥

夜水鳥をよみえぬ夕暮小漁志とよる千鳥啼之

讀人不知

水鳥拂の鳥 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

水鳥近馴 代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

水鳥多 代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

他水鳥 代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

葦有れ鳥 代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

水鳥好 代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

能口水鳥 代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

仁水鳥 代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

海鳥鳥 代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

鳥水鳥

鳴

鴨

鴛鴦

寄水鳥

水鳥有跡

網代

夜網代

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

代 赤い鳥と啼かれ小くはどをのぎるふのがかり

有照網代

紅葉留網代

名所網代

網代典

寄網代述懐

實ミヅレ

雪

月うらのをまがも川小流をねあつ小むいとのとる元補
 金 月きとませが網代とまむいせのあふさるゆも公の 経信
 於 網代木小くうのあま唐錦日成てまする紅葉也 三正徳人
 行 山小の流やいづく吹やうん網代もまは小紅葉様也 魚成之
 代 山小の流吹く網代木小くねあぬと紅葉様も季 後乾
 六 三吉地は茅野の川乃網代よの流たをまて流様も 書之
 後格 網代木又紅葉に記まむむいせの錦風流をねたれ 義徳
 詞 網代小の沈むもまむらうのまを治れ流りて我や 似言
 後 秋月時は雨すわうとどくとまて小くまどく集く 龍全ちち
 另 真山の霞たけぬま降もねまむらうのまを降るの 大伴之
 全 若れが木ど小流を暖くするいばねは梅とつたてどわ 友鳥
 全 ぬがと小又の流し流も流をまむらうのまを降るの 徳人ちち
 後 山或小まば社まらわ白若れいづまう流たあ小まむら 〃
 初 雪をとらあらる若れ久々の月成つて流たあ小まむら 信補

物雪

朔初雪
 霜と初雪
 山初雪

山乃初雪
 雪初雪

同 秋東風の空吹の寒は冬ふ小三とあつ山に若れ雪あらり 信實
 全 雪あつてはねぬ雪流ればらふ小うら若れもも々々 皇子内親王
 古 今とらいつてそやもん家若の若あまふれか若 讀人不知
 格 初雪と流しと見る初若れと此のふ小うらとあつては 系以
 後格 雪あつては初若れとあつては此の寒が暖まする流 相模
 後 冬はあつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 吉制石
 代 雪あつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 仁和子八郎
 後 雪あつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 三山湯
 後 雪あつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 吉美八郎
 代 雪あつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 経信
 後 雪あつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 惠慶
 代 雪あつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 義忠
 後 雪あつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 色房
 代 雪あつては初雪とあつては此の寒が暖まする流 岩原院

雪か梅の花
梅枝雪積

山雪
山雪
雪か梅の花
梅枝雪積

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

雪か梅の花
梅枝雪積
山雪
山雪

山深雪

野雪

原上雪

野徑雪

聖高雪

松雪

助 となれはく消んやの山煙ふまれてはく白雲
 万 しまれはく手をさしと園元の木ごと小窓を凍るる
 全 いっ汁はくさの雪まれば本葉ふくえ人のいり境
 初 雪小床の梅はくさくさくさくさくさくさくさく
 初 玉粒舞の笑をえぬとあせの冬花の雪路少く
 初 ころころ雪はくさくさくさくさくさくさくさく
 初 大花まふの系は雪路のいさくさくさくさくさく
 代 花雪風むさくさくさくさくさくさくさくさく
 初 雪まふ小窓の細はくさくさくさくさくさくさく
 初 ありさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 初 松はくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 初 友木はく松はくさくさくさくさくさくさくさく
 初 雪路まふ小窓はくさくさくさくさくさくさく
 初 いっ汁はくさくさくさくさくさくさくさくさく

龍宗
 龍人不知
 堀川右
 佐渡
 範並
 聖雅
 余介娘子
 良徳
 為季
 園房
 俊成
 長方
 經國
 國房

山路雪

雪埋山路

山榎雪

關雪

山深雪

行路雪

初雪

後 山路はくさくさくさくさくさくさくさく
 代 本葉はく小窓はくさくさくさくさくさくさく
 初 松はくさくさくさくさくさくさくさくさく
 初 友木はく松はくさくさくさくさくさくさく
 初 雪路まふ小窓はくさくさくさくさくさくさく
 初 いっ汁はくさくさくさくさくさくさくさく
 初 初雪小床の梅はくさくさくさくさくさくさく
 初 玉粒舞の笑をえぬとあせの冬花の雪路少く
 初 ころころ雪はくさくさくさくさくさくさく
 初 大花まふの系は雪路のいさくさくさくさく
 代 花雪風むさくさくさくさくさくさく
 初 雪まふ小窓の細はくさくさくさくさく
 初 ありさくさくさくさくさくさくさく
 初 松はくさくさくさくさくさくさくさく
 初 友木はく松はくさくさくさくさくさく
 初 雪路まふ小窓はくさくさくさくさく
 初 いっ汁はくさくさくさくさくさく

経信
 經季
 秋澄
 白川院
 雲居
 長生
 寺
 内大進
 慶尋
 俊成
 西住
 佐志

山甲雪

山甲雪

山甲雪

山甲雪

山家雪

山家拂雪

山家雪

山家雪

古
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

代
部小のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

新
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

後
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

代
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

後
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

山甲の雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

山甲の雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

山甲の雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

山甲の雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

山甲の雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

山甲の雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

山甲の雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

山甲の雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

忠岑

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

山甲

雪埋屋

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

形
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

代
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

新
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

後
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

代
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

後
雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

雪のうらみ程なる山甲の山人と云ひし記ありん

瞻為

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

庭雪

故郷雪深形
社頭雪

後 沁もさく雪ふる里ハ荒少なりいざれ昔はたのしみなり
千 子子振神たいた小雪なりそをとりてゆきとて終る
代 ちとて雪たゆゆきをとりていざれ神の精なり
仁知入
好虫

社邊雪

社邊雪
好虫
仁知入

雪中古寺

雪中古寺
好虫

本林雪

本林雪
好虫

山松雪深

山松雪深
好虫

岩樹雪深

岩樹雪深
好虫

雪埋松

雪埋松
好虫

松原雪

松原雪
好虫

雪埋松
好虫

後 魚

雪混落葉形
雪埋落葉形
松上雪

雪混落葉形 雪埋落葉形
松上雪
好虫

雪埋古松

雪埋古松
好虫

松雪深

松雪深
好虫

雪埋松樹

雪埋松樹
好虫

雪埋松樹

雪埋松樹
好虫

雪埋松樹

雪埋松樹
好虫

雪埋松樹

雪埋松樹
好虫

雪埋松樹
好虫

雪落長松

秋雪

雪埋舟

竹雪

雪落衣

栞頭雪色

雪中興

望山雪

雪中暇坐

初 年冬の松の心を凝りて花候までとて雪の音は

代 山嵐の朝の園吹雪の音はわが心は雪の音に

金 雪の音はわが心は雪の音に

新 雪の音はわが心は雪の音に

全 雪の音はわが心は雪の音に

統 雪の音はわが心は雪の音に

代 雪の音はわが心は雪の音に

全 雪の音はわが心は雪の音に

初 雪の音はわが心は雪の音に

初 雪の音はわが心は雪の音に

初 雪の音はわが心は雪の音に

初 雪の音はわが心は雪の音に

初 雪の音はわが心は雪の音に

雪中遠望
雪朝眺望
雪中遠情

雪中窓人

雪中待友

二条院

通濟

能宣

紀伊或ア

与任

西行

石川金母

後成

後成

後成

後成

後成

後成

形 侍人此禁のたひ隠ゆるし初づの故小若らふ家なり

代 小侍悦

雪申無事客 誦とむ誰よりりの心海とを種ねる意と人此は

代 小侍

雪申尋人 忘れたる愛こそとて心むすく人若らふとて若とて人

代 後系極

雪申若事 心置れ格の葉のまゝ若らふとて人若らふとて人

友待雪 心置れ格の葉のまゝ若らふとて人若らふとて人

全 若らふとて人若らふとて人若らふとて人

後 馬場の白くあり方わわさば先白若らふとて人

全 倉りの心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

後 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

秋 冬若らふとて人此小若らふとて人

全 好中

寄雪延思

後 入る若小物ふ人家分とらりや此りりて消収斗ど

後 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

全 降若の年とたどて様りつらうく小先人此小若らふとて人

初 寄様る心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

代 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 雪降て人下をらねたれや心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 世若れつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

全 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

代 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

老人憐雪
若雪傷雪
雪中幽思

老人憐雪 馬場の白くあり方わわさば先白若らふとて人

若雪傷雪 倉りの心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

雪中幽思 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

全 好中

寄朝嘆志

初 降若の年とたどて様りつらうく小先人此小若らふとて人

代 寄様る心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 雪降て人下をらねたれや心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 世若れつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

全 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

代 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

初 心置れ小もつらうく小先人此小若らふとて人

采草雪

野行草

鷹狩

後 采草雪 讀人不識

代 采草雪 采草雪の雪をいふは雪の采也やと云

代 野行草 野行草の雪をいふは雪の野行也やと云

代 鷹狩 鷹狩の雪をいふは雪の鷹狩也やと云

代 相鷹狩 相鷹狩の雪をいふは雪の相鷹狩也やと云

代 夕鷹狩 夕鷹狩の雪をいふは雪の夕鷹狩也やと云

代 鷹狩日暮 鷹狩日暮の雪をいふは雪の鷹狩日暮也やと云

代 夕鷹狩 夕鷹狩の雪をいふは雪の夕鷹狩也やと云

雪中鷹狩

狩場霰

野鷹狩

澤鷹狩

炭竈

朝炭竈

炭竈煙

炭竈雪

小地山

燒炭

燒炭

燒炭

燒炭

燒炭

燒炭

燒炭

後 雪中鷹狩 雪中鷹狩の雪をいふは雪の雪中鷹狩也やと云

代 狩場霰 狩場霰の雪をいふは雪の狩場霰也やと云

代 野鷹狩 野鷹狩の雪をいふは雪の野鷹狩也やと云

代 澤鷹狩 澤鷹狩の雪をいふは雪の澤鷹狩也やと云

代 炭竈 炭竈の雪をいふは雪の炭竈也やと云

代 朝炭竈 朝炭竈の雪をいふは雪の朝炭竈也やと云

代 炭竈煙 炭竈煙の雪をいふは雪の炭竈煙也やと云

代 炭竈雪 炭竈雪の雪をいふは雪の炭竈雪也やと云

豊中炭竈

深山炭竈

甲炭竈

岩炭竈

埋火

豊明節會

約
山崎の焼炭が毎に燃えそ面をて多量の炭とあり
色房
和泉中ア
秋成
鎌倉右大臣
左大臣
中子内
魚威
和泉式部
後頼
色房

代
色ありて今も大なるぬ炭山小炭やう類あり
兼倉右大臣
左大臣
中子内
魚威
和泉式部
後頼
色房

形
日敷の岩炭が不増の炭竈に類もさし大系に里
中子内
魚威
和泉式部
後頼
色房

代
中子内
魚威
和泉式部
後頼
色房

形
まところを以て子炭を埋火とてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

代
板すとの種小なる山炭小炭れする埋火に類
和泉式部
後頼
色房

代
埋火とて名をとりてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

辰日節會

五節舞姫

加茂信村祭

條河祭還立

代
日敷とて名をとりてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

形
天代風を吹かすや吹とてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

形
天代風を吹かすや吹とてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

形
天代風を吹かすや吹とてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

形
天代風を吹かすや吹とてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

形
天代風を吹かすや吹とてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

形
天代風を吹かすや吹とてつとる類あり
和泉式部
後頼
色房

神樂

本垣の三女のおれ林紫の神の息女小後りあひさらり
 影衣まびらきとれとぬ林紫の息女あま林清きこひえ
 まはりのあまねれあひさるとんたるとるがふらうつとせと
 とふに八景海うしとるるまき記のうらふあつあつり
 隆実の英造のもつりあひらぐあまきとらこむひり
 一家の板井あまあ里遠よりくまきあまきせおそり
 後さうあまあまうてうらうとぬ世小の神はあまあ神物
 林紫の息女さうとてわればあまあまんとおとあひら
 るてぐふらうらう物とてぬのまふとらえうらうら
 るてぐらあ家あああすまふまきあまあ神の神のまき
 相坂あまき越えらるるの子あまきまきあまあま
 とらあ人のあまきとらあまき神のあまあまあま
 石とらあまきとてのうらあまきあまきあまあま
 白くは自実の太刀あまきあまきあまきあまあまき

讀人不知 下同

雪中神樂 禁中神樂

全 家約はあくゆるみんあびるあまあまあまあまあま
 さいざり小女あまきあまきあまきあまきあまきあまき
 是りのうら林紫あまきあまきあまきあまきあまきあまき
 金 林紫あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 神あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 初 神あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 神あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 林紫あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 林紫あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 代 年ど小神あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 是れあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 それこのあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 林紫あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 神あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 代 林紫あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 林紫あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 代 林紫あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき
 通方

夜神樂

自來神樂

里神樂

佛名

雪才佛名

佛名三境

佛名相

早梅冬梅同

雪中梅

代 くらしく小神の夜はとよきとて夜はこころ大志ありきけ 後撰

初 神は春の雪を拂ふゆりゆりな夜にふくむる君がとてとて 補尹

代 直のたのしみは深く遠く小月歌なる静けさあり 通具

初 庭火のつらさをせぬとて遠くの静けさの静けさの月夜は花を境 二条入道

格 里神樂の静けさは小言にたると静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 人の心は静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 年之内小神の静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

格 静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

雪中早梅

早梅冬雪

梅花先春

梅早待

梅告春

歳取暮

早梅暮

花の色は白く静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 小野篁

梅は冬に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 二河

梅は春に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は冬に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は春に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は冬に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は春に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は冬に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は春に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は冬に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は春に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は冬に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は春に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は冬に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は春に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

梅は冬に静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさの静けさ 兼盛

惜歳暮

おのり年のゆくゆくはふたまたまた鏡るるがらふ小暮ぬと云ふ
金人あれど暮りゆくは情まきふといふまはなぬはは
有暮のせつめいふらうらなれが家分小暮いとぬるやなり
形ふとふ小暮ふとぬと惜れぬ又もと小暮あひまふ
代ふとふとつりり七十九はふらむはふ年の暮る邦
約々のふふとてふあふのやうは後より暮るまふ
月いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
代いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
形いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
月いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
代いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ

冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之

驚歳暮

おのり年のゆくゆくはふたまたまた鏡るるがらふ小暮ぬと云ふ
金人あれど暮りゆくは情まきふといふまはなぬはは
有暮のせつめいふらうらなれが家分小暮いとぬるやなり
形ふとふ小暮ふとぬと惜れぬ又もと小暮あひまふ
代ふとふとつりり七十九はふらむはふ年の暮る邦
約々のふふとてふあふのやうは後より暮るまふ
月いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
代いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
形いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
月いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
代いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ

冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之

送年

歳暮忙

おのり年のゆくゆくはふたまたまた鏡るるがらふ小暮ぬと云ふ
金人あれど暮りゆくは情まきふといふまはなぬはは
有暮のせつめいふらうらなれが家分小暮いとぬるやなり
形ふとふ小暮ふとぬと惜れぬ又もと小暮あひまふ
代ふとふとつりり七十九はふらむはふ年の暮る邦
約々のふふとてふあふのやうは後より暮るまふ
月いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
代いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
形いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
月いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ
代いさぐふふとつりり月日はさる年終るまふ

冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之
冬之

代 若狭の岩並のかりたる波は子くもゆき年々此書これ
は月といひるくと常一に飛鳥川流れて至る月日也より
列樹

歳暮急於水 花鳥川終る淵深も如物はせくると年々此書これ
如物

歳暮急於水 花鳥川終る淵深も如物はせくると年々此書これ
如物

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

寄物歳暮 寄浪 寄馬 寄木 寄夢 寄玉

代 萬石の岩のかりとる波は子くもゆる年れ言えれ 後政

少りのけそ二 是日といひ多くと著て飛鳥川流れて多記月日也有り 列樹

歳暮急於水 花鳥川移る淵激もわ物せせくも言て年れ言えれ 如野△

歳暮急於水 内 流つても水は流れて河氏言の年れ言えれ 隆信

歳暮急於水 物 年のたのうらむ川せりあはなれて多たうれ言えれ 鍾志△

寄物歳暮 物 是れ波越る分社多るれ言えれ今ハ末のうらむ川△ 二石祝王

寄浪 物 是れ波越る分社多るれ言えれ今ハ末のうらむ川△ 後朱女

寄雪 物 是れ波越る分社多るれ言えれ今ハ末のうらむ川△ 通具

寄木 物 是れ波越る分社多るれ言えれ今ハ末のうらむ川△ 家持

寄夢 物 是れ波越る分社多るれ言えれ今ハ末のうらむ川△ 西り△

寄玉 物 是れ波越る分社多るれ言えれ今ハ末のうらむ川△ 家隆

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

寄玉 物 若ねも又もわりんとい年小波の波も向る 後朱

歳暮言志

歳暮思着

歳暮懐旧

歳暮待之

歳暮惜別

旅中歳暮

旅宿歳暮

歳暮祝

千 歳暮言志

新 年への浮世は夏の夢くづるまけいとわづら

代 へふらん独背の意をのぞけ枕小年の當ゆる

後 ありま小年の當るまは人のあやむと遠く城

ふらんの大ゆゑの年うづる當りさうらん

形 いたん代年とわづら見れりとは惜とらん

後 ちのづらういとわづらうらん

後 留宿ま山嶽小年の境まの境の境小年

後 言てり年とわづら引ゆるはまの春の境

後 旅への年とわづら小どわづらまの春の境

後 別れははる中とわづらわづら年の當り

千 東旅へ年を束ふかかぬらん

月 かり物の年を枕とわづら小と教ゆるは二年の當り

初 一年の當りぬとわづら惜むはよはにわづら代の當り

家持

り念

ふらん

内大

魚書

重之

何光

読人

ふらん

大補

勝負

三瓶王

魚書

國信

待春

旅花待美

不存待美

不存待美

植梅待春

除夜待美

春卜隣

待花

万 初 何れ代年の色り花をわづら家若小年の當り

初 かり年をわづら小にせても何れ代年とわづら

後 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

金 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

後 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

代 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

後 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

初 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

初 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

有 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

有 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

有 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

有 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

有 何れ代年の色り花をわづら小にせても何れ代年とわづら

冬相嶺

冬煙

冬曉

冬暎

冬朝

冬夕

冬夜

冬夜長

冬夜難睡

形 枕小屯社小下返はくわて結ぐぬまはと入る多 梅西

後 冬に元をくむ小は里の山に里をり雪を降し 後人よ

續 山に小舟の煙をぬくくと出小は里の山に

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

冬夜長

冬地儀

冬山

冬深山

冬野

冬野中

冬園

冬川

冬川

冬川

冬川

冬川

初 おもくも友より此は福是よははかり 誓を秋のよ徳

形 冬に元をくむ小は里の山に里をり雪を降し 後人よ

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

代 雪の降るまじはるれぬ小舟の煙をぬく

冬海邊
 冬浦朝
 冬漁火
 水鏡冬
 冬舟
 水郷冬
 冬社願
 冬阿冬
 冬田
 冬山田

千 冬吹版浦の波は冬に後小月傾きぬ 家至
 代 鷗の舞は浦の波を冬に波も冬に 隆秋
 六 秋若れ波は風と冬に冬に響の鏡火と冬に 冬人冬
 後 冬つく舟は冬に冬に舟小波も冬に冬に 内大玉
 初 冬つく舟は冬に冬に舟小波も冬に冬に 冬人冬
 千 月も冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 後冬
 古 冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 新 冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 後 冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 新 冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 代 冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬

冬田家
 山家冬
 冬山田
 冬山田
 冬山田
 冬山田

代 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 古 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 新 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 後 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 初 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 千 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 古 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 新 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 後 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 初 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 千 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 古 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 新 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 後 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 初 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬
 千 山田の冬に冬に冬に冬に冬に冬に冬に 冬人冬

冬食

冬衣

冬植物

冬木

冬埋木

冬花

冬藤

冬竹

冬獸

冬鳥

冬鷹

冬と鷲

冬雀

物 家裏のとい焼小かくさぬとまのくもかやとまの焼
代 すけ海小水とくく終敷くこの麻衣は元波の二
浦風小家くく夜かまらひて才小増積るとりの信
柞系局初初れくす小片の根孫結れり
形 叶へ何と冬に果り此神正月まづるまぬ森神
代 葉山れゆぐさいそおつてんわめりしつ次書れり
後 志をいふまらるる根木は長ぶく方ど人もしり
あ 照るに君が光れ小と初花の時へかぬ袖小とるる
物 白雲れをくつとて降くくべいおわく咲花と結れ
代 葉初小葉波くくくつらつ花の葉はくまづる
本 枯下何の元とくくくくく神まひのくくく
形 何の元と書れれれれれれれれれれれれれれれ
上 志をいふまらるる根木は長ぶく方ど人もしり
後 神正月の元と書れれれれれれれれれれれれれれ

冬食 光徳△
冬衣 隆孫△
冬植物 後人△
冬木 後人△
冬埋木 後人△
冬花 後人△
冬藤 後人△
冬竹 後人△
冬獸 後人△

冬木 後人△
冬埋木 後人△
冬花 後人△
冬藤 後人△
冬竹 後人△
冬獸 後人△

冬竹 後人△
冬獸 後人△

冬鳥 後人△
冬鷹 後人△
冬と鷲 後人△
冬雀 後人△

冬雀 後人△

冬雀 後人△

冬雀 後人△

冬雀 後人△

冬雀 後人△

冬雀 後人△

冬雀 後人△

冬雀 後人△

冬懐旧

冬釋教

冬神祇

冬之祝

十月

勅 紅葉小をるふらとて降物に昔とちつる流やんり
元良

代 神正月時節にあふといふくをむむぬぐるも
隆盛

形 朝のあふ井はあふ小年著て我々の秋のふれぬ
隆盛

全 神祭の暮打掃ひんどののすわとどのの神は
隆盛

續 松のこ小降の言れぬ消てたてぬれぬ物とど
隆盛

詞 何どもりてわんと志ひ小神正月小
好中

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

同 糸く井定めされと小年よりそが
隆盛

代 神正月よりふる年は時節小
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

代 何とさく可ぬさりり夜小の秋
隆盛

讀人不知

閏十月

十一月

十二月

閏十二月

竹野集れおおくかよ

奉成り上げてあよむこははるたふいと久しうりき

きやう菊奈集うそせはくまのあるえさわせくは

うしう歌人の常にあはるまはあうさわを合せ

といふ奉りまうくよりうやうく唐まりよける志のハ

あれと宇多醍醐乃清時より花山一條の清時までの

そとくこれ集とを考ふに題詠のあとも数おはの

くわ越えれはるやれ歌人しつるれをハ歌かハ此

あせをあしけるもふまをくくハれよりせくくりて

塘河の清時よわとれふように題詠せうあよたりそ

了ゆきよとけせとぬりてを大さふあふ人影よよは
よほしとれはあまよむしをよまのまおとせし
あんなまにたるやもくとのまおとせし
とちりよまはまのまおとせし
あふれとらよありていさきい乃ゆき
あまよはいさよそといまんにいさく人のことひ
ままの詞もまをまあまこまあまてよまの
ことわさまてみやひままれのままのままの
けつままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの

了よまんのまはあれまありぬまとのままのま
まのままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの
ままのままのままのままのままのままの

かねにたれずの人乃影秘め之まのれを事とちり
 めるもおめつゝしれいさほじよまんありけ果てあ
 おんじよをふゝ思ふに影後といふゆいり一編よは
 了ていかのあせりといふくゝとにあらめてあ
 きてむりゝくちありとふよるなれたとくひま
 すゝま古城志よんとしてまのたれひせんよ此
 きてゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 志ははとちかゝとき人れまれの古をこお可れ
 ふへれ影後を後れあゝりなれは志よひかゝ
 こといひてあさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ねんをそそみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 をりていふまれのいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 雄風やゝゝゝのたゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 け里花をもちあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 香をそほみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 くよひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 詠よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 とゝれ世の人乃たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 明題影林のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

六角城あつてはしつあまはははてそまねへふれとあ方
甲に和くくれるふれみゆるはんゆたは物のいふ
得せんと人をよくてはてふとほへふれは事
ふれしかれはまたきぬとそろくさほらにふ
とがれるふれもむねはすに口たれゆのそよみて
むふれおのけうへあてまよありせんふいふは
ふれいふれもふれも一ふれあふれふてふれ
せふれとおもふれいふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ

ふれはふれ先ふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ
ふれふれふれふれふれふれふれふれふれふれ

よひまぬひの人とあゝぬすの口たれ志ありて
うらりくあふしとまゝいとされをわさるのこ
れよまのちの勢はしとねほやをまもまたらみえ
まゝのまゝ人れまゝいおる集まのうらなるとの
いとりて古の人れひらひまゝせし家集うら開ふ
とれたまゝいふらゝにまゝいしてゝうれまゝい
まゝたゝるらゝあぢとらたはまゝはえせしとお
まゝるらゝいゝまゝかゝらまゝはをめて、芳宜園の
るらゝあゝくせにまゝいまゝ一まゝとらゝいんらゝと
れまゝよらゝうらあゝらゝ紋野にならゝくらゝあゝま
げよつまゝいゝゝゝゝゝたはれりやけ集まゝいおこ
たのれりゝゝはまゝいまゝい乃人ゝれゝゝめまやゝ
わゝいゝんゝまゝゝれゝゝ志をあとなせらゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

文化の三つ勢をいふ事のかまゝいしきやうの
れらゝまゝはまゝ

